



東京立川 ロータリークラブ

【司会進行】

SAA委員会 渡辺博昭副委員長

【開会点鐘】 中野裕司会長

【ロータリーソング斉唱】

『4つのテスト』

【お客様の紹介】 中野裕司会長

【会長挨拶】 中野裕司会長

【幹事報告】 田中 太幹事

【委員会報告】

青少年奉仕委員会 木村真人委員長

【ニコニコ発表】

親睦委員会 岩田明彦委員

【出席率の発表】

出席委員会 井上修一委員長

11月24日(金)	会 員 数	108名
	出席義務会員	102名
	出席免除会員	6名
	当日出席者	91名
	出席免除会員の当日出席者	2名
	出席率	87.50%
	11月10日の出席率	85.44% → 100%

【卓話講師紹介】

プログラム委員会 山田圭介委員

【卓話】 青梅市カヌー協会 会長

藤野 強様

【閉会点鐘】 中野裕司会長

2017~2018年度 RIテーマ



ロータリー
変化をもたらす

2017~2018年度 国際ロータリー会長 イアン H.S. ライスリー

2017~2018年度 クラブテーマ

Be surprised!! Rotary!

「感動を忘れずに!」

東京立川ロータリークラブ
会長 中野裕司



例会時には必ずバッジをつけましょう

Weekly Report

2017.11.24 第2771回 例会



【会長挨拶】 中野裕司会長

今月11月の「Phrase of the day」の時間としたいと思います。先月お伝えした「Make」を使った熟語・Phraseを覚えていますか? 「Make fun of~」でしたよね。“Don't make fun of me!!!” 「ばかにすんじゃね~よ」という、一矢報いるような英語表現をお伝えしました。今日は皆さんが良く知っている形容詞で「Tired」を使った熟語をお届けしたいと思います。Idiomの面白さを楽しんでください。それでは皆さん「韻を踏みましょう!」 Here we go !!! Let's start the exercise, Today's phrase is「Be tired of ~」普通皆様は「あ~疲れた~」という時、英語では「I'm so tired !!!」と使いますよね。しかしIdiom・熟語のサプライズポイントは、前置詞の「of」を付けるだけで「~に飽きる」という状態を表現する言葉に変わります。例を挙げますと「I'm tired of doing this.」 「もう、これやるの飽きたよ」とか、「I'm sick and tired of you!」 「お前にはうんざりだよ」と使います。“Sick”は普段、病気という意味ですが、“Sick and tired of~”で「うんざり」というような表現に変わります。次年度、清水淳一会長年度の地区大会は Guam で開催されます。その時には是非是非、パシフィック・ベイシンのメンバーに試してみても如何でしょうか。最後にもう一度 “I'm tired of doing this.” O.K! Have a nice weekend!!! 以上会長挨拶でした。



中野裕司会長

【お客様の紹介】 中野裕司会長

藤野 強様<青梅市カヌー協会 会長>



司会進行
渡辺博昭副委員長



ニコニコ発表
岩田明彦委員



出席率の発表
井上修一委員長

【幹事報告】 田中 太幹事

●20日(月)プログラム委員会 第2回炉辺がホテル日航立川東京にて開催されました。●21日(火)親睦委員会の第4回炉辺が18:30よりパレスホテル立川にて開催。●本例会終了後、指名委員会が当ホテルで開催されます。●12月1日(金)例会終了後、第6回理事会が開催されます。役員理事の方はご参加下さい。●本日メールボックスに地区大会のご案内を配布させて頂いております。地区大会では食品ロス防止の観点から昼食に要否を求めている開催となります。登録および昼食の要否についても12月15日までにご連絡下さい。●前回の例会のご案内させて頂きましたクリスマスチャリティーコンサート後の慰労会のご案内文ですが、訂正前の資料配付となっていました。正しくは料金6,000円でホテル日航立川東京さんに快諾して頂いております。訂正してお詫び申し上げます。



【委員会報告】 青少年奉仕委員会 木村真人委員長

過日行われましたインターンシップ受け入れ事業につきまして、多くの企業の皆様に受け入れをして頂きまして、誠に有難うございました。この場を借りて御礼申し上げます。続いて第47回クリスマスチャリティーコンサートについてのご案内です。本年度は社会福祉法人日本介助犬協会様への寄付を予定しております。本日募金箱を廻します。是非ご寄付の程お願い申し上げます。タイムスケジュールとお願いをメールボックスに配布しておりますが、本年度はたましんRISURUホール5階の第一会議室での例会となっております。昨年は地下でしたが本年度は5階となっておりますので、お間違いの無いようお願い致します。本年度は先着順の入場となっておりますので、各委員会の方のお手伝いをお願いしたいと思います。またチケットでは入場できませんので、当日先着順にチケットと入場引換券と交換の上入場となり、定員になり次第締め切らせて頂きますので、チケットを配布されている方は、その旨をお伝え頂きたいと思っております。



【ニコニコ発表】 親睦委員会 岩田明彦委員

- 中野裕司会長 青梅市カヌー協会 会長 藤野 強様の卓話、楽しみにしております。
- 田中 太幹事 本日の卓話講師をして頂きます藤野 強様の卓話を楽しみにしております。本日は宜しくお願い致します。
- 金原宏和さん たましん経営者研究会立川支部 山下隆仁会長、昨日一昨日の視察研修旅行では、大変お世話になりました。楽しく、有意義な一時でした。
- 矢澤俊一さん 藤野様、本日の卓話楽しみにしております。2020年に向けて、ルールも勉強したいと思います。
- 山田圭介さん 藤野会長、本日の卓話よろしく願います。カヌーのお話し楽しみにしております。

【卓話講師紹介】

プログラム委員会 山田圭介委員

現在の役職は、NPO法人青梅市カヌー協会会長、東京都カヌー協会理事、駿河台大学カヌー一部監督、公益社団法人日本カヌー連盟指導者育成委員会委員長、略歴は1997年から2006年日本カヌー連盟 日本代表コーチ、2003年から2006年日本カヌー連盟スラロームワイルドウォーター委員長、2014年から現在まで日本カヌー連盟ジュニアU23日本代表ヘッドコーチとして活躍しております。戦歴は全日本カヌースラローム選手権大会11連覇、全日本NHK杯カヌースラローム大会6連覇、W杯1989年～1996年出場、1992年バルセロナオリンピック出場(28位)、1996年アトランタオリンピック出場(34位)、その他世界選手権にも出場(1979年から8大会出場)、その他出演番組として、BSムービング、NHKスポーツ教室カヌースラローム競技基礎編があります。本日はスポーツを通じた健全育成というタイトルでお話し頂きたいと思っております。



「スポーツを通じた健全育成」

～カヌースラローム～

青梅市カヌー協会 会長 藤野強様

私をご紹介の通りカヌーしかやってきておりませんが、そんな中地元でどんな事しているのか、カヌーの事も含めてお話し出来ればと思います。スポーツを通じた健全育成という事です。スポーツとしてのカヌーを通してどのように子供を育成していくかという事で課題は大きい物がありますが、やっている事は単純で、普段の習慣づけと言うだけの事ですが、その環境があつて初めて子ども達が成長していくのです。まずカヌースラロームとは何かと言いますと、昭和39年の東京オリンピックで初めてカヌー競技が採用されましたが、当初はスプリントという競技で、スラロームはその後に採用されました。国内では第37回の島根国体からスラローム競技も正式採用されましたので、歴史的にはまだ浅い競技であるという事が言えます。自身が始めた頃はまだボートとカヌーの区別がつかない方が殆どでしたが、今はカヌーという競技がしっかり根付いているという事は有難い事だと思います。この競技は変化に富んだコースの川で、200M～400Mの中に18ゲートから25ゲートを設定して、そこを接触しないように通過するタイムを競う競技です。2016年リオオリンピックで日本カヌー連盟としては初のメダリストとなった羽根田選手を覚えていらっしゃいますか。彼はメディアにも取り上げられていましたイケメンで、当時ア



本日合計 21,000円 本年度累計 1,323,000円

ジア選手は絶対にメダルが取れないと言われていたのがカヌー競技でしたが、見事それを打ち破って銅メダルを獲得されました。東京オリンピックでは江戸川区葛西に競技場が作られ、200Mの長さに23ゲートが作られる予定であります。規定ではコース設定は協議の前日に発表される事になっており、選手は練習が出来ないために前日にコースの脇から見てイメージをし、当日競技に臨みます。ヨーロッパでは観客が1万人ほど入るという事で、現在東京オリンピックに向けてはIOCから1万人の観客席確保を要求されていますが、葛西では現在8,500席ほどしか確保出来ない状態ですので、更に増やすように要請されているようです。カヌースラロームというとなんか難しく感じるかと思いますが、まず遊びでも良いから楽しむ事を第一歩とする事が大事だと考えておまして、その中で青梅市カヌー協会としての活動を紹介致します。まず競技としてカヌーをしますのです、カヌーを愛する事はもちろんですが、多摩川を利用させて頂いていますので、その場所への感謝という事も含めて多摩川を道標にしようという事で、「多摩川を愛します」としています。続いていつまでもカヌーを楽しむという事、また私達はこの憲章を心の道しるべとして、カヌーの普及・発展を目指す、この様な事を起点に活動しております。実は当協会では私を含めてオリンピック選手を4名輩出しております、その中で2008年北京オリンピックに出場した竹下百合子選手がいますが、この選手実は4位になっています。メディアにもあまり取り上げられなかったのが、皆様あまりピンときていないかもしれません。そして今回の羽根田選手が3位で、度々メディアにも取り上げられ有名になりましたが、この事で4位と3位が天と地ほどの違いがあるという事を痛感致しました。もし竹下選手が銅メダルを獲得していたら、青梅市カヌー協会ももっと素晴らしい事になっていたかもしれません。また協会では普及と底辺の拡大という事に力を入れておりますが、その一環としてカヌー講習会、カヌー体験、市内小中学校カヌー教室の開催ですとか、オリパラ推進授業への講師派遣を行っていたり、アスリートの発掘育成プログラムとしてスポーツとしてカヌーに興味のある子どもはジュニアチームに入り、そこから本格的アスリートになれるよう選抜して養成をしていくのですが、練習は基本的に毎日行われ、練習プログラムとしてのセッションも1日複数回になり、一週間で12~3のトレーニングセッションを行って頑張っています。リバースポーツの拠点として、当協会は多摩川を利用していますが、オリパラを経ますと人工の施設が出来ますので、今後そこを拠点として様々な大会が出来ますので、更なる普及を目指しています。私が出場したバルセロナオリンピックでは、現地の会場が街から200kmほど離れている場所で、人口も2,000人程度の小さい街でしたが、オリンピック開催後も普通に子ども達が200~300名通っているという事を聞きました。という事は環境と施設を揃える事で、子ども達が触れる機会が増えるのです。今の日本の子ども達はゲーム

に触れる事が多く、中々スポーツをする子が減っていますがこれは世界共通だそうです。だからこその様な施設でスポーツに触れる機会を増やす必要があるのだと感じています。海外のカヌースラローム競技の現状ですが、ヨーロッパを中心に競技が発展していますので、スロバキア・フランス・ドイツ等のヨーロッパ諸国が強豪です。この強豪国もオリンピックを経てその会場が今でも競技場として使われていて、そこで育った選手が大勢いて、更に強い選手が出てきているのです。また協会としては行政と地域との連携も図っております。カヌー教室の開催に際して、地域のクラブと行政機関が連携して開催し普及を図る事で競技人口も増え、やがて施設を作るという事も出来るのだと思います。そしてその施設がツールとなって、ラフティングと呼ばれる大型のゴムボートに乗って川を下るスポーツや、フリースタイルといって川の波を利用してアクロバット的に見せる競技であるとか、ダウンリバーと言って、川で長い距離を下る競技であるとか、スタンドアップパドル(SUP)ボードの上に立ち乗りをして進む競技であるとか、様々な競技が可能になり、それこそが普及に役立つと考えています。東京オリンピックの施設でも、開催後に様々な競技場として利用が出来るのです。

続いてこれからは自身の経験をお話しさせて頂きます。カヌーは皆様中々触れた事も競技した事もなく馴染みのないものかと思いますが、この競技が初採用されたのが、1972年のドイツでのミュンヘンオリンピックです。その後20年間はオリンピックの競技として採用されませんでした。ですのでミュンヘン以降次に採用されたのが、私が出場した1992年のバルセロナオリンピックだったのです。これを機に一気に盛んになったのです。昔と違って今は子ども達に目標を聞くと、オリンピックに出場してメダルを取りたいです、と簡単に言います。ですので以前と比べるとオリンピックでメダルを獲得する事は、夢のまた夢という感じではなく少し近づいている存在のようになっています。それだけ夢も大きいといえるのですが、普段の練習場所や小さい競技大会とは環境が大きく違うので、会場では緊張して中々実力を発揮しづらい事はあります。私も1万人の観客とその大声援の中で競技をする事の難しさを実感し、自分を見失ってしまうという事がありながらも、確かにとても良い経験になりました。また選手村はずごくセキュリティが厳しかった事を覚えています。バルセロナでは、まだ自分のIDがバーコードによる検査だけでしたので、人に貸してしまえば容易に侵入出来る状況にあり、実際侵入されたという事件が発生したため、すぐにバーコードを貸さないようにという通達が来ました。次のアトランタではかなり進みまして指紋認証となりましたが、5本の内の3本が合わないと入れないという事で認証に非常に時間が掛かりました。ですので選手村の入り口には競技を終わった選手のバスが戻ると、長蛇の列となっていました。選手村では殆ど全ての物が無料になっていましたので、不自由す

る事はなかったのですが、唯一駄目なのはアルコールで、これは持ち込みも駄目でした。それを知らずに持参した私はセキュリティエリアで止められ、数本飲みましたが全てを飲む事が出来ずに破棄して入村しました。一気に飲んだお陰で酔いも早く、その日は部屋に入ってすぐ寝られた記憶があります。また食事も24時間、世界各国の料理が食べられるようになっていましたので、食事に関して苦労する事はありませんでしたが、減量を要する選手は非常に苦労されていたようです。ですので、比較的食糧事情の良くない国などからの参加選手は、食べ過ぎてしまって計量で失格したという話も聞きました。また先程お話したようにセキュリティが厳しかったので、安心ではありましたが特に開会式では大変でした。開会式は通常夜に開催されますので、終了時間が12時前後で、そこから数万人の選手が一斉に選手村に帰るというのに、出口が少なく一時間半以上掛かったため就寝は午前3時頃。しかし次の日の練習が朝7時からという事もありました。また選手移動用のバスが来ないという事もあり、スタッフ用の車に乗せてもらい、慌てて移動したという事もありました。またリオオリンピックでは、ドイツのコーチが選手村から会場への移動中にタクシーで事故があり亡くなられたという痛ましい事もありましたので、自分たちも気を付けなくてはと思いました。その他様々なアクシデントが起きましたが、やはりオリンピックは素晴らしい経験になりますので、是非子ども達には目指して欲しいと思います。私は青梅生まれの青梅育ちで地方に出る経験を積んでいないので、他の地域の事は良く分かりませんが、やはり青梅には自然があり、その中で競技をする事が出来たので成長する事が出来ました。ですので青梅で出来る自然を利用したスポーツの発展に寄与したいと思ったり、子ども達にもそのような経験をさせてあげたいと思っています。また今はこの青梅からオリンピック選手を輩出しようという取り組みも

強化しています。青梅はカヌーが有名であり盛んですので、様々な地域から選手が来ている事も事実です。その中で青梅生まれの青梅育ちの選手を更に強化していこうとの取り組みも7年ばかり経過しまして、ようやくジュニア日本代表の選手が数名育ってきました。海外で勝負していますが、成績はまだまだですので、これから更に頑張らなくてはいけないのですが、子ども達にとってはとても大きなプレッシャーになります。現在高校一年生の数名は海外でも素晴らしい成績を残してきていますので、今後のスケジュールをどうするのかも本人に確かめておりますが、来年2月からシドニーで数週間強化合宿があり、7月には世界選手権、その後8月はそのまま海外で強化合宿、その後に日本選手権と続いており、日本と海外を頻繁に行き来する状況です。このくらいしないと、オリンピックでのメダルは難しい状況にありますので、当協会としても一生懸命支援しております。現在瀧口選手(全日本ジュニア代表)、武藤選手全日本ジュニア代表)、三島 廉選手(アンダー23代表)がいますので、どこかでカヌー競技で名前を見ましたら応援して頂きたいと思ったり、また地元の青梅市としても力を合わせて強化を推進して頂いております。こういった事を通じて、子ども達が健全に育っていく事を願っています。今大学でも教えておりますが、1年間の練習の中で2~3週間ほどの休暇を与えると、髪を染めたりピアスをつけたりしてしまう子もいるので、あくまでカヌーで自己アピールをするように指導しておりますが、子ども達には生活のリズムをしっかり作ってあげる事が大切で、そのためにカヌーという一つの題材があるのだと感じております。この講演を期に少しでも理解が深まったならば有難く思いますし、青梅は自然豊かな素晴らしい場所ですので、是非遊びにいらして頂けたらと思います。

クリスマスチャリティーコンサート 会員募金合計 82,000円

11.14(火)~16(木) 実施 インターンシップ受け入れの様子 その2



■ 事務局 / 東京都立川市曙町2-34-6 小杉ビル8階
 【TEL】042-525-4046 【FAX】042-529-2666
 【HP】<http://www.tachikawa-rc.org/>
 【E-mail】ttrc8082@sepia.ocn.ne.jp

■ 例会場 / 東京都立川市曙町2-40-15 パレスホテル立川
 TEL : 042-527-1111
 ■ 例会日 / 金曜日 12 : 30点鐘
 会長 / 中野裕司 幹事 / 田中太 会報担当者 / 安藤永一委員長